

アフターコロナで自動車産業が目指すべき戦略

— CO2削減が待ったなしの中、CASE、MaaSにどう対応するか —

2019年9月の国連主催の気候行動サミットにおいて、「パリ協定の目標である“産業革命以降の温度上昇2°C以下”では不十分であり、“1.5°C以下を必達目標”とすべき」と提示され、これを達成するため、多くの国が具体策を表明しました。また、昨年から新型コロナウイルスの蔓延により、経済は大きなダメージを受けていますが、これまで増え続けてきたCO2は、皮肉にも昨年8%の減少に転じています。まさにCO2削減が待ったなしの危機的状況の中で、すべての産業に早急な取り組みが求められています。自動車産業は100年に一度の大変革といわれる、CASE^{※1}やMaaS^{※2}にも対応しなければなりません。

本セミナーでは、これらの環境課題、技術課題に今後どのような戦略で対応すべきか解説します。

※1 「Connected（コネクテッド）」「Autonomous（自動運転）」「Shared & Services（シェアリングとサービス）」「Electric（電動化）」の頭文字をつなげたもの
 ※2 「Mobility as a Service」の略で、直訳すると「モビリティはサービスと同じ」。意味合いは“移動”すること自体をサービスとしてとらえるという考え

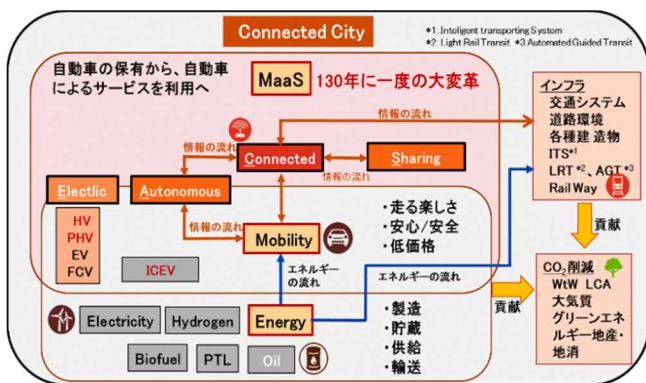


図1. CASEとMaaSそれぞれの関連

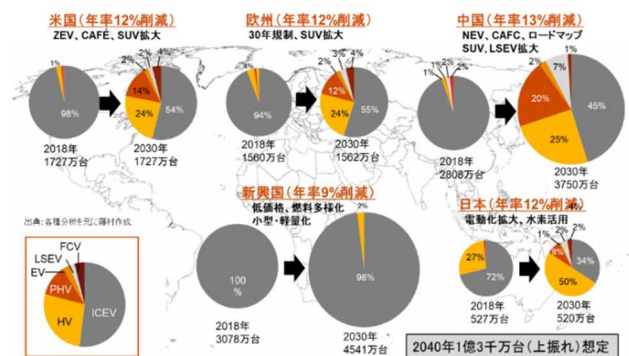


図2. 各国・地域の電動車比率（2030年）

日時 令和3年3月16日(火) 14:00~16:00

会場 Zoomを利用したオンライン配信

※Zoomの環境がない方については金沢市ものづくり会館（金沢市栗崎町4丁目80-1）でスクリーンによる聴講も可能です。

対象 これからの自動車産業に関心のある企業、研究開発機関、行政機関の方々
 ※本市または本市近郊に事業所がある方が対象です。

参加無料
Zoom開催

[講師] 愛知工業大学 工学部 客員教授 博士(工学) 藤村 俊夫 氏



1980年に岡山大学大学院工学研究科修士課程を修了し、トヨタ自動車工業入社。入社後31年間、本社技術部にてエンジンの設計開発に従事し、エンジンの機能部品設計（噴射システム、触媒システムなど）、制御技術開発およびエンジンの各種性能改良を実施。2011年に愛知工業大学工学部に出向（その後2015年に転籍）し、機械学科教授として熱力学、機械設計工学、自動車工学概論、エンジン燃焼特論の講義を担当。

2018年4月より愛知工業大学工学部客員教授となり、同時にTouson自動車戦略研究所を立ち上げ、自動車関連企業の技術顧問、技術コンサルティング、自動車技術動向関連の寄稿、各種セミナー、講演会などを行う。

「先端ものづくり技術交流セミナー(第4回)」参加申込書

会 場 (いずれかに○) オンライン配信 (Zoom) ・ ものづくり会館 (スクリーン)			
企業名			
所在地 〒			
TEL		FAX	
参加者	役 職	氏 名	E-mail

※オンライン配信で受講される方には、後日、URL 等をメールでご案内します。

※申込みをいただいた方には、今後、金沢市からセミナー等のご案内をさせていただく場合があります。

■ 申込方法：F A X (076-260-7191) 又はEメールにてお申し込みください。

■ 申 込 先：金沢市産学連携事業運営委員会事務局
金沢市商工業振興課 担当 山田
TEL：076-220-2205
FAX：076-260-7191
E-mail：syokou@city.kanazawa.lg.jp

■ 申込締切：令和3年3月11日（木）

詳しくは、Webサイト
「金沢市産学連携ネットワーク」
をご覧ください。

金沢市産学連携ネットワーク

